



特集

このまちで住み続けたい！



す ずらん町づくり協議会では、「地域福祉活動計画」を策定する際、「まずは、地域の課題を洗い出そう」と、さまざまな議論がなされた。平成15年のことだつた。その翌年には、地域住民へのアンケートも実施された。そんな中、「交通弱者への支援が不可欠」という結論に至り、送迎サービスを開始するための資金を積み立てていくことから始めていった。

日常生活に不可欠なのが買い物だが、すらん台には店が少ない。移動を手助けしてくれた若者が独立していく家庭も増えてきた。また、路線バスがあつても、丘陵地

に造成された住宅地特有の坂が高齢者の移動を困難にしていました。もちろん、移動にかかる支援だけではなく、家事や家の維持管理などを暮らしの中でさまざまな支援を必要とする高齢者も増えていた。

「当時の議論と、これに続ぐ地域の皆さんとの取組みが、現在のライフソポートクラブの基盤となっています。しっかりとした将来ビジョンを持つて準備しておいてよかったです」と、当時を知るライフソポートクラブ事務局長の濱川りり子さんは振り返る。

なった。サービスを提供する活動会員が集まるかが鍵となつたが、地域のボランティア団体で組織する「すずらん台ボランティア連絡会」が協力。たくさんの活動会員が集まつた。現在、活動会員は48人が登録。利用会員は、サービス内容や利用者の声などを掲載した機関紙の発行のほか、まちの保健室による紹介、口コミなどにより、今年1月に、100人を突破した。

地域の課題について議論されていましたことや、もともと地域に存在していた組織が連携しあえたこと。そして、行政に比べ「フットワークが軽い」というところにも理由があるようだ。

「問題が出たときにどうすればいいかばかりを考えていっても前に進みません。まずは動き出して、ダメなところは見直していくばいいし、やってみないと見えない課題もある」と大橋さんは指摘する。特に送迎サービスは、

資金の調達をはじめ、運行ルートや時刻、事故への対処方法など課題は多い。「目的は、地域住民みんながいくつになっても、すずらん台で暮らせる環境づくり。何かするとなつたら、すぐに入人が集まってくれるのがすずらん台のいいところかな。わたし自身も、地域の皆さんに『一人でも安心して住める町になつてきた』と喜こんでいただくと、やっていてよかつたと思えます」と笑顔を見せてくれた。

地域課題を洗い出しが活動の原点
とにかく動き出して、
ダメなところは見直せばいい。

イフササポートクラブが活動を開始。会員制の助け合い組織として、会員の年会費のほか、市の補助金や市民活動保険を活用することなどにより、生活支援サービスや送

A black and white portrait of a man with glasses and a white jacket, smiling. He is standing in front of a wall with a poster that includes the text 'イフ' (If) and 'ナポート' (Naport). The image is part of a larger collage.

「とにかく動き出すことが大切」とすずらん台ライフサポートクラブ会長の大橋健さん。すずらん台市民センター内にある事務所で

＜ライフサポートクラブのサービス概要＞

生活支援サービス



生活に密着したきめ細やかな生活支援サービスとして、①家事支援サービス（掃除、調理、洗濯、買い物など）②庭管理支援サービス（剪定、草引き、草刈りなど）③日曜大工支援サービス（手すり取付、家具固定、網戸張替え、障子張替えなど）がある。利用日より3日前の午後5時までにライフサポートクラブ事務局（すずらん台市民センター内）へ申し込む。

利用料は、材料費などのほかに、作業費として、1時間まで1人700円、以降30分毎に500円を加算。交通費としてガソリン代1kmあたり50円。活動会員には、協力謝礼金として、1時間までは交通費として1回500円。1時間以上は、交通費・弁当代として1回1,000円が支払われる。なお、家に入るときは2人以上で支援を行っている。

送迎サービス



7人乗りのワゴン車で現在3つのルートを運行している。

①病院コース…
すずらん台～寺田
病院・市立病院 ②買い物コース…すずらん台～コメリ・
ロコマート、Aコープ、青山町駅 ③ナッキー号接続コー
ス…すずらん台～アピタなど

運行時間は、平日の午前9時～午後3時。利用するには、前日の午後5時までにライフソポートクラブ事務局に申し込む。会員は、ガソリン代相当分を負担する。現在、運転者として8人が登録。月単位で乗務計画を作成している。

なお、送迎サービスを実施しない日は、すずらん台内の各種団体に貸し出しているほか、市民センターまつりの際には、来館者の送迎に活躍している。



ラ イフサポートクラブでは、利用会員に「完璧を求めるな
いでください」と説明している。家事や庭管理などは、あくまで
も「お手伝い」であり、活動会員は、地域のはできる範囲で活動して
いるからだ。また、活動会員は、地域のほ
かの活動にも参加していることも
多く、利用者の希望の時間に合わ
せられないこともあるという。
一方で、「利用会員に喜ばれる
ことで、技能を磨いていこうとい
う気持ちに結びつけていただいて
いるようです」と大橋さん。また、
技術を持つ会員と、これから技術
を身につけようとしている会員が
一緒に作業を行うことで、多くの
活動会員にさまざまな技術を習得
してもらい、利用者のニーズに応
えようとしている。

各地域で策定が進められています 10年、 20年先の「地域ビジョン」

市内では、すずらん台ライフサポートクラブのように、行政だけでなく、さまざまな人や団体が地域課題に向き合いながら、多様な公共サービスを生み出し始めています（市では、このような支え合いの仕組みを「新しい公」と呼んでいます）。

そうした中、各地域づくり組織には、「地域づくり組織条例」に基づき、自分たちの住むまちの将来像を「地域ビジョン」としてまとめていただいています。これは、10年、20年先の地域のあり方を、地域の実情に照らし合わせて、地域の皆さんに考えていただくというものです。市では、「新しい公」を進めていくためにも、市の各種計画や施策に、各地域の「地域ビジョン」を反映させていきます。

ただ、「地域ビジョン」は、地域の一部の人だけでは作るものではありません。そのため、住民アンケートや住民の意見交換会などにより、多くの住民の意見を地域ビジョンに反映させようと取り組んでいた地域もあります。

これからも「住み続けたい」まちであるために、皆さんの地域には、どんな課題がありますか？また、どんな取組みができるでしょうか？多くの地域の皆さんがこの議論の輪に加わることで、もっと暮らしやすいまちをつくることにつながっていくはずです。

※「地域ビジョン」について詳しくは、各地域の
地域づくり組織（事務所は各地区の公民館や市民
センターにあります）か、地域政策室（☎ 63-
2186）へお問い合わせください。

「自分たちのまちは、自分たちでつくる」という気持ちを、地域のみんなで共有することが大切



経験豊富で時間的ゆとりもある団塊世代の活躍は地域社会で期待されている。活動会員として、また、送迎サービスの担い手として活躍中の古川武志さん（写真左）もその一人だ。以前は、電気関係の仕事をしていたので、ちょっとした家電修理もお手のもの。仕事を辞める前は、「仕事一本」の生活だったという。「運転中、地域の人が手を振ってくれたりすると、地域との一体感を感じますね。皆さん喜んでくれますのでやりがいもあるし、なにより楽しいです」と古川さん。

写真中央は、運転手のリーダーである後藤友治さん。古川さんが運転手となつたのは最近なので、この日同行した。

写真右は買い物に行くために利用した小田ふみ子さん。

を増やすことが大切だと思うんです。そのためには、多くの地域の皆さんに、会員登録していただけようにしていかなければなりません。今後も、地域のさまざまな団体と連携して取り組んでいきたかった」と話してくれた。毎月開かれる運営委員会には、町づくり協議会や老人会、市民センター、民生・児童委員、地区社協、そして活動会員などから委員が集まり、実績報告や課題について話し合っている。そんな中、昨年12月からは、個人や団体（企業など）に活動を応援してもらうための「賛助会員」を募っていくことになった。

